

麻 酔 科

麻酔科診療部長 さとう 佐藤 じゅん 淳

当院には麻酔を専門に行う医師4名が勤務しています。麻酔科の主な業務は、手術室での『麻酔』、外来での『ペインクリニック』、ICU（集中治療室）での『集中治療』です。

麻 酔



全身麻酔

麻酔とは、患者さんが切られても痛くない状態にすることです。手術の場所や大きさによって麻酔の方法が決まります。「全身麻酔」では、まず点滴から意識をなくす薬と呼吸を止める薬を注入します。その後患者さんの口から気管に呼吸のためのチューブを入れて（気管挿管）、人工呼吸器につなぎます。このチューブから酸素と麻酔薬の吸入を行います。麻酔中は持続的に心電図、血圧、血液中の酸素の量などを観察しており、呼吸と血液の循環を常に安全な状態に管理しています。手術が終わって麻酔薬を切ると5～10分ぐらいで目が覚めて、チューブを抜いて病棟に帰ります。病棟に帰ってからも痛くないように鎮痛薬を続けて使用したりもします。

下半身の手術では「せきつい脊椎麻酔」を行います。腰から針を刺して脊髄の近くに薬を入れます。下半身だけ麻酔が効くので意識はあります。麻酔前には麻酔科の医師が患者さんの全身状態を診察して把握しており、安心して麻酔を受けていただけます。

ペインクリニック

外来では、麻酔の技術を応用して痛みの治療を行っています。頭痛、肩こり、腰痛、坐骨神経痛、帯状疱疹の痛み、癌の痛みなどに神経ブロック療法という軽い麻酔の注射や、内服薬、貼り薬などを処方したりします。血のめぐりが良くなるので顔面神経麻痺や突発性難聴などにも効果があります。武田鉄矢のCMでおなじみの神経障害性疼痛も治療します。とうつう顔面けいれんはボトックス注射で治療をしています。高気圧酸素治療の特殊なカプセルでは、2倍の酸素を吸入することで手足の酸素不足などの多くの病気に効果があります。



神経ブロック療法

集 中 治 療



人工呼吸

麻酔の基本的な技術は呼吸や血液循環の管理です。その技術を応用して、多発外傷や大きな手術後などで人工呼吸や血圧を保つ治療が必要な患者さんの治療を行います。ICU（集中治療室）では麻酔科の医師が中心になって24時間の当直体制をしています。患者さん2人に対して看護師1人が常に付き添っています。人工呼吸器以外にも心臓の代わりに血液を送るポンプや、持続的に血液透析をする装置などの高度医療機器を使用して集中治療を行っています。